

# Jークレジット制度 プロジェクト計画書 （森林管理プロジェクト用）

---

プロジェクトの名称：

南三陸森林組合員の森林管理プロジェクト

プロジェクト 実施者名	南三陸森林組合
----------------	---------

**妥当性確認申請日      2013年 12月 27日**

**プロジェクト登録申請日   2014年  2月 12日**

## 1 プロジェクト実施者の情報

### 1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がある場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) ミナミサンリクシンリンクミアイ
	南三陸森林組合
住所	〒986-0728 宮城県本吉郡南三陸町志津川字天王山 138-3

### 1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ) イリヤセイサンシンリンクミアイ
	入谷生産森林組合
住所	〒986-0728 宮城県本吉郡南三陸町入谷字中の町 248-1

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、欄をコピーしてそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。

### 1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ) イリヤセイサンシンリンクミアイ
	入谷生産森林組合
住所	〒986-0782 宮城県本吉郡南三陸町入谷字中の町 2 2 1 - 1

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2~4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

## 2 プロジェクト概要

### 2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	南三陸森林組合員の森林管理プロジェクト	
目的	震災により集団移転する造成地の伐採事業を優先して行うため、通常行うべき間伐事業への取り組みが出来ず森林の荒廃化が懸念されている。また、復興木造住宅の建築材として地域資源の有効活用を図ることが求められていることから、組合員である入谷生産森林組合所有林で間伐を実施し、建築材を提供することで吸収量を増大させる。	
概要	入谷生産森林組合所有林で平成25年度から平成29年度まで間伐を実施し、CO2吸収量を増大させる。	
プロジェクト実施場所	市町村	宮城県本吉郡南三陸町入谷
	場所 ※1	入谷団地

※1 「○林班～○林班」、「○○事業区」等と記載するとともに、森林計画図等の図面を添付する。

### 2.2 プロジェクト実施前後の状況

(プロジェクト実施前のプロジェクト実施地の状況※1) :							
森林の現況 (人工林)							
経営計画全体の面積は以下の通り (単位 : ha)							
	アカマツ	カラマツ	スギ	その他の広葉樹	ヒノキ	(空白)	総計
3 齢級						0.12	0.12
4 齢級			2.72	0.1			2.82
5 齢級					1.44		1.44
6 齢級			3.7		0.23		3.93
7 齢級	2.97		5.85		14.46		23.28
8 齢級	13.9		13.47		1.68		29.05
9 齢級	13.03		21.6				34.63
10 齢級	23.1		30.53	0.11			53.74
11 齢級	16.83		33.42	0.79			51.04
12 齢級	6.15		11.89	0.2			18.24
13 齢級	0.08	0.07	0.85	0.17			1.17
14 齢級	0.51		0.87	0.71			2.09
15 齢級	2.68		0.14				2.82
16 齢級			0.3				0.3
17 齢級			0.27				0.27
総計	79.25	0.07	125.61	2.08	17.81	0.12	224.94

経営計画全体の蓄積は以下の通り

(単位：m<sup>3</sup>)

	アカマツ	カラマツ	スギ	その他の広葉樹	ヒノキ	(空白)	総計
3 齢級							
4 齢級			345	5			350
5 齢級					178		178
6 齢級			754		36		790
7 齢級	557		1,661		2,466		4,684
8 齢級	2,944		4,469		319		7,732
9 齢級	3,014		8,239				11,253
10 齢級	5,762		12,800	13			18,575
11 齢級	4,369		14,517	101			18,987
12 齢級	1,682		5,442	28			7,152
13 齢級	19	17	249	25			310
14 齢級	151		491	109			751
15 齢級	815		81				896
16 齢級			179				179
17 齢級			163				163
総計	19,313	17	49,390	281	2,999		72,000

間伐対象地の現況

(森林経営計画認定番号：25606200100)

面積 (なお、ヒノキについては、林分収穫表がないため、対象外)

(単位：ha)

齢級	スギ
7 齢級	1.91
8 齢級	9.27
9 齢級	17.15
10 齢級	17.42
11 齢級	22.83
12 齢級	9.43
13 齢級	0.10
14 齢級	0.23
15 齢級	0.09
16 齢級	0.30
17 齢級	0.27
総計	79.00

蓄積 (なお、ヒノキについては、林分収穫表がないため、対象外)

(単位：m<sup>3</sup>)

齡級	スギ
7 齡級	154
8 齡級	942
9 齡級	1,948
10 齡級	2,185
11 齡級	3,176
12 齡級	1,287
13 齡級	16
14 齡級	39
15 齡級	16
16 齡級	54
17 齡級	49
総計	9,866

※1 森林の現況、森林タイプ（人工林・天然林等）別、樹種別、齡級別の面積と蓄積等について情報を表などにまとめ説明すること。また、間伐対象林についても同様の表と文章を作成すること。なお、説明には数値を用い、具体的に説明すること。また、林分が多数にわたる場合には、総括表を記載したうえで、森林簿、森林施業計画書又は森林経営計画書から上記情報が含まれている部分の写しを添付しても良い。

（プロジェクト実施後のプロジェクト実施地の状況 ※2）：

- ① 人工林（スギ・ヒノキ）は大径材の生産を目標とし、主伐の時期をスギ・ヒノキについては100年とする。そこで、主伐時期までの長期の経営計画を立て、計画的に森林施業を行う。また、間伐展示林として間伐施業の普及を図り、未間伐地の解消に努めると共に森林の公益的機能の増進を行う。
- ② 間伐間隔は概ね10年～15年とし、定性間伐を繰り返し間伐率25%～30%で実施する。

※2 対象林において、森林経営計画又は森林施業計画に基づいた施業の方針について、主伐実施時期、間伐実施間隔、植栽樹種、定量／定性間伐の区分、間伐率等の内容を、数値を用いて具体的に説明すること。また、林分が多数にわたる場合には、総括表を記載したうえで、森林簿、森林施業計画書又は森林経営計画書から上記情報が含まれている部分の写しを添付しても良い。

## 2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 平成25年4月以降に実施されたプロジェクトである <input type="checkbox"/> 平成24年4月～平成25年3月に実施されたプロジェクトであり、オフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録を受けていない ※2 <input type="checkbox"/> 平成20年4月～平成25年3月に実施されたプロジェクトであり、
------------------	--

	オフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3
追加性	■追加性を有している ※4

※1 「プロジェクトの実施日」とは、森林経営計画又は森林施業計画に基づく適切な施業又は森林の保護（森林の巡視等を含む）を実施した日を指す。

※2 【FO-002（植林活動）について】平成 25 年度中に限り J-クレジット制度のプロジェクトとして登録申請を行うことができる。

※3 【FO-002（植林活動）について】オフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトについては、「平成 25 年 4 月以降に実施されたもの」という要件を満たしている必要はない。

※4 【FO-001（森林経営活動）について】追加性評価に関する詳細情報は別紙（A.1）に示すこと。

### 3 方法論

#### 3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	FO-001 ver. 2. 0
	方法論名称	森林経営活動

#### 3.2 方法論の適用条件への適合

条件1	■ 適合している	説明 森林法第5条に定める森林で実施される。
条件2 ※1	■ 適合している	説明 平成25年5月13日南三陸町町長の認定（認定番号25606200100）を受けている森林経営計画に沿って実施され、かつ、森林経営計画単位で実施される。
条件3 ※2	■ 適合している	説明 主伐は実施しないため該当しない。
条件4	■ 適合している	説明 認証対象期間内に森林経営計画に基づく間伐が、プロジェクト実施地において計画されている（入谷団地）
条件5	■ 適合している	説明 プロジェクト実施地の土地転用（収用など避けがたい土地転用を除く。）が計画されていない

※1 【FO-001（森林経営活動）について】 算定対象とする施業が含まれる全ての森林経営計画又は森林施業計画の認定番号及びその認定期間を記載すること。

※2 【FO-002（植林活動）について】 算定対象とする施業が含まれる全ての森林経営計画又は森林施業計画の認定番号及びその認定期間を記載すること。計画が認定されていない場合は、モニタリング報告書に記載すること。

#### 3.3 モニタリング・算定方法

プロジェクト実施後吸収量		
主要／付随的	吸収活動	温室効果ガスの種類
主要	地上部バイオマス蓄積	CO2
主要	地上部バイオマス蓄積	CO2

プロジェクト実施後排出量		
主要／付随的	排出活動	温室効果ガスの種類
主要	該当なし	CO2
主要	該当なし	CO2

#### 4 吸収計画

認証対象期間 ※1	2013年 6月 1日 ～ 2021年 3月 31日（7年10ヶ月）				
吸収計画※2	年度	ベースライン 吸収量	プロジェクト 実施後吸収量	プロジェクト 実施後排出量	吸収量
	平成 25 年度	0 t-CO2	54.1 t-CO2	t-CO2	54 t-CO2
	平成 26 年度	0 t-CO2	160.1 t-CO2	t-CO2	160 t-CO2
	平成 27 年度	0 t-CO2	229.9 t-CO2	t-CO2	229 t-CO2
	平成 28 年度	0 t-CO2	332.9 t-CO2	t-CO2	332 t-CO2
	平成 29 年度	0 t-CO2	475.6 t-CO2	t-CO2	475 t-CO2
	平成 30 年度	0 t-CO2	467.3 t-CO2	t-CO2	467 t-CO2
	平成 31 年度	0 t-CO2	463.3 t-CO2	t-CO2	463 t-CO2
	平成 32 年度	0 t-CO2	453.8 t-CO2	t-CO2	453 t-CO2
	合計	0 t-CO2	2,637 t-CO2	t-CO2	2,633 t-CO2

※1 認証対象期間は、プロジェクト開始日の含まれる年度の開始日から平成 33 年 3 月 31 日までの間で設定すること。

※2 吸収量の算定方法については、別紙 A.2 に記載すること。



## 5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、Jークレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

### 5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	南三陸森林組合 総務課長
内部監査	南三陸森林組合 業務課長
モニタリング担当者*1	南三陸森林組合 総務課
測量・プロット調査実施者	委託先 宮城県林業公社

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

### 5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	<p>(1) 測定機器の維持・管理 測定機器の維持・管理は、測量、プロット調査実施者がそれぞれ機器の取り扱い説明書に基づいて使用前に実施するものとする。</p> <p>(2) データの確認 測定データの確認：モニタリング担当者が確認し、更にデータ管理責任者が実施。 吸収量算定の確認：モニタリング担当者が確認し、更にデータ管理責任者が実施。</p> <p>(3) 情報管理 記録の保管は、データ管理責任者で行うものとする。吸収量算定は、計算がトレースできるようにワークシート等で行い、検証機関等が確認できるようにモニタリング記録とあわせて保存する。</p> <p>(4) 内部監査 内部監査は、モニタリングと吸収量査定が実施されているか外部審査を実施する前に実施する。</p> <p>(5) 教育・訓練 データ管理責任者が、モニタリング担当者及びモニタリング実施者に教育を行う。</p>
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u>10</u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。その際、森林管理のための巡視を行う体制を明記すること（森林の巡視とは、一般的に、森林の保全管理及び森林の産物の盗採、林野火災等の森林被害の防止及び発見のために、定期的及び必要に応じ森林において行うもの）。

※2 原則認証対象期間終了後 10 年間とする。

## 6 特記事項

### 6.1 吸収量に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

吸収量に影響を与える可能性のあるリスクがあるか <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
---

※1 プロジェクト排出量が増加し、プロジェクト吸収量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	自然災害（台風）が想定されるので、大きな伐開地を設けない施業を行う。また、近年増加傾向にあるニホンジカによる樹皮剥離被害や、山菜取りによる林野火災も懸念される。 モニタリング時の人的リスクへの対応として、モニタリング計画書の樹種・林齢の情報と現地林分の状態の齟齬が発見された場合の対応としてデータを訂正し吸収量算出の誤りの発生のリスクを管理する。

### 6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。 <input type="checkbox"/> 登録している (類似制度名：_____ ) 類似制度での認証予定期間：_____ ) <input checked="" type="checkbox"/> 登録していない
--

### 6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等の義務履行によるものではない。 <input type="checkbox"/> 法令等の義務履行によるものである。
--

### 6.4 認証対象期間の設定について

認証対象期間の前後の年度に、主伐の実績又は計画はないか。 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 有の場合、認証対象期間は、クレジットを過大に発生させる目的で、主伐の時期を意図的に避けて設定していないか。 <input type="checkbox"/> 意図的に避けたものではない (設定の考え方：_____ ) (例) 森林経営計画の計画期間を認証対象期間としている
---